

## 警固断層の発達と変遷 ~ ダメージゾーンに発達する断層岩からの考察 ~

## Development and change of Kego fault, Fukuoka prefecture, Japan :Consideration from fault rocks in damage zone

# 坂 啓惟 [1]; 小林 健太 [2]

# Keii Ban[1]; Kenta Kobayashi[2]

[1] 新潟大・理・地質; [2] 新潟大・自然科学

[1] Geology,Sci,Niigata Univ; [2] Grad. Sch. Sci. &amp; Tech., Niigata Univ.

地震活動は起こりにくいと考えられてきた北九州において、2005年3月20日、マグニチュード7.0の福岡県西方沖地震が発生した。警固断層は余震分布域の延長に位置していることから、その活動の波及が懸念されている。

警固断層は北西-南東走向、西上がりをする、活動度B~C級の活断層である。研究史として、中軸部における調査・研究は行われているが、外縁部までを対象とした構造地質学的研究は皆無である。警固断層を捉えるには、本体の活動度だけでなく、周囲に分布する断層および断層岩の運動像・変質環境を考え論じることが非常に重要である。本研究では、警固断層周辺の地表踏査を行い、基盤岩類である早良花崗岩、糸島花崗岩中に発達する断層および断層岩類の記載、姿勢の測定、分析を行った。また、産業総合研究所によって行われた大佐野トレンチにおいて同様のことを行った。

その結果、ダメージゾーンの幅・運動像・物質的特徴を捉えることができ、警固断層が異なる応力場でいくどもなく活動してきたことが明らかになった。さらに、中軸部のデータから福岡県西方沖地震の震源断層と警固断層が1つづきでないことが明らかになった。